

第 2 2 回 埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会臨時総会議事録

(要点筆記)

- 1 開催日時 令和 5 年 1 月 2 4 日 (火) 午後 7 時 0 0 分～午後 8 時 0 0 分
- 2 開催場所 加須保健所 2 階 大会議室
- 3 出席者 別添名簿のとおり
※新型コロナウイルス感染症の感染防止策のひとつとして、オンライン会議を取り入れて開催

4 進 行

(1) 開会 (高橋事務局次長)

(2) あいさつ (加藤会長)

協議会規程第 2 1 条により加藤会長が議長

(3) 議事録署名人選出

加藤会長が北埼玉歯科医師会長の野本先生と加須市薬剤師会長の渡辺先生を指名

(4) 経過報告

長原ヒューマンネットワーク担当部会長 (済生会加須病院院長)

前回の作業部会では、加須市、幸手市、杉戸町が残ってくれるとのことでしたが、継続するにしても辞める方向にしても、もう少し時間をかけて、丁寧にやらないと、なかなか厳しいことではないかと思っています。

個人的には、事務局と話す中で、35,000 人の健康記録等があるので、この財産をどうにか、例えば、このシステム自体で収支ができるような方策があれば、これができるのではないかと思っているが、県の方がいらしているが、補助金等いくつか手があるのか、なくて自助自立で何らかの方策を考えた方がいいのか、まだいくつかの方法論があると思っているので、もう少し時間をかけて考えるべきではないかと思っています。

また、辞める方法にしても、この前にも私お話ししたけれども、幾人かの方が非常に困ると、訴えてしまおうとか、いろんなことがあった時にどうするかとか、もろもろのことを考えておかなければいけないので、時間をかけた取り組みがさらに必要ではないかと思っている次第です。

(加藤会長)

長原先生、作業部会で決まった具体的なことはありましたか。

(長原部会長)

作業部会では、基本的には途中で辞める市町は、加入されている方に説明を行う。説明文書等のプロセスも含めて事務局が担当し、ご理解をいただく方向で決まっています。2市1町以外のところで、その動きがあるということです。

三島 IT ネットワーク担当部会長 (東埼玉総合病院院長)

先日までは、作業部会では、2市1町(加須市、幸手市、杉戸町)が継続の方向で検討していました。何とか細々と続けて久喜市が戻ってきてくれるのではないかと思っていたところでしたが、突然加須市が抜けるということで、たたむ方向で行かなければいけなくなったのですが、私は、現場で「とねっと」に入るよう言っていた者として、お金がないにしても行政の突然の住民の意向を聞くこともなく、辞めると言ってしまうことができるのだ、ということ自体に驚いたところです。なんと住民不在な行政なのかと、憤っているところがあります。お金がないって言ってしまうえば終わりですけれども、久喜市に文句を言っただけとはいけませんが、秋谷病院が移転するのに、ずいぶんお金を出すというのであれば、なぜ、35,000人が参加している「とねっと」に出してくれないのかと、いろいろ思うところがありますが、出来ないものは出来ないでたたむのですが、少なくとも、私ども医療機関に苦情が来ることがないように、行政がしっかりやってもらいたい。散々頑張っ、はしごを外された気分でありませ。行政の方には、きっちりと責任を取っていただきたい。

(5) 協議事項 (別添資料参照)

○協議第1号 令和5年度以降の「とねっと」システムのあり方(案)について

(渡辺事務局長)

本日は、12月22日開催の作業部会で承認された「とねっと」システムのあり方の2件を提案する予定でありました。一つは、財政難等による5市1町(行田市、羽生市、久喜市、蓮田市、白岡市、宮代町)の退会による7市2町の枠組みの中での「とねっと」システムのあり方、もう一つは、2市1町(加須市、幸手市、杉戸町)の枠組みによる「とねっと」システムのあり方でした。

ただし、このうち、2市1町の枠組みによる「とねっと」システムのあり方については、作業部会承認時から、加須市から退会の報告があり、これを受けて幸手市、杉戸町が再検討となり、作業部会承認時と大きな内容変更がありましたので、本日は、7市2町の枠組みによる「とねっと」システムのあり方についてのみ提案することとしました。

(協議事項の説明 省略)

(長原部会長)

他の地域の同じような医療ネットワークについて、契約満了日が記入してあるが、その後の方向性はわかりますか。

(渡辺事務局長)

「晴れやかネット」(岡山県)については今年度終了。「米ねっと」(新潟県)については令和5年度末でおそらく終了の見通し。「あじさいネット」(長崎県)他についても、県の補助金が出るか、出ない場合の財源の確保ができるか、検討中とのことであります。いずれにしましても、更新費用、利用料等を独自財源で賄える協議会しか、事業継続ができない状況ということでもあります。

(長原部会長)

2市1町(加須市、幸手市、杉戸町)で継続するとなると、その時の費用は、11,220,000円となるのですか。

(渡辺事務局長)

仮に2市1町の場合、加須市が退会の場合でも11,220,000円の額です。ただ、これでは厳しいということで、NECと協議を継続しているところです。

ただ、この医療連携や救急機能の範囲を縮小すれば、この額は減少します。

(三島部会長)

「とねっと」の事業終了は、令和5年度ですか。

(渡辺事務局長)

7市2町の枠組みによる事業終了は、令和5年度末(令和6年3月31日)です。

(加藤会長)

加須市として、何かコメントすることがありますか。

(萩原加須市副市長)

加須市としては、これまでこのシステムを積極的にスタートして来たことから、熟慮してきました。結果として、前回の作業部会を踏まえて、7市2町(9市町)のうち6市町が退会の方向の前提の中で、協議会として対応できないのではないかと、いわゆる利根保健医療圏の中でこのシステムを作り上げてきたものであり、加須市、幸手市、杉戸町のみでは難しいのではないかと、さらに

は、このシステムは個人情報に関係等もあり、この協議会が延長しない限りこの情報は使えない。さらに費用負担等様々なことを内部で検討した結果、年末（12月28日）ではありましたが、加藤会長に退会する旨の報告をさせていただきました。

加須市としては、このシステムを立ち上げた当事者として、大変残念であります。が、こういう方向とさせていただきます。

（加藤会長）

済生会病院が加須にオープンしたということが、市民の皆さんにとって安心が増したということで、このシステムに負の風が吹いた感じがいたします。ただ、「とねっと」の立ち上げからしても7市2町が主体になってやっていくことがオリジナリティだと思いますし、7市2町の政策判断は最も重んじるべきものではないかと思っております。

この「とねっと」の最初に整備計画に手を挙げて立ち上げたときに、そのあとの責任があるのかと、国の保健局長に聞いたことがあります。その内容は、「社会医療情勢は日々変わっていくものであるから、またその時点で判断するのであって、ずっと続けなければいけないということで基金を出したわけではない。」と言ったことを今でも覚えております。

ここで県の医療整備課 坂課長、ご意見とか、コメントがありましたらよろしく願いいたします。

（坂 埼玉県医療整備課長）

県としてコメントしていくのは非常に難しい立場ではありますが、ただ、2年間延長を、令和4年3月の協議会臨時総会で決められた時にも、基金の活用を含めて、更新を前提に進められたことを聞いております。

今年の9月の総会にも、たとえプレイヤーが少々変わったとしても目的が達成できれば基金の対象としていいのではないかと、私は考えますと、その時はある決意をもって申し上げたところです。

ただ、構成市町の皆様方のご意見ということでしたので、それ以上私の方から申し上げることはございません。もしこのままであれば、あとは、住民への説明は重要なんだろうなと思います。

（三島部会長）

救急システムは残るので、東部消防とは何か意見はなかったですか。

また、もう一つ、来年3月までシステムは使えるので、今後「とねっと」への参加を呼びかけるのですか。

（渡辺事務局長）

東部消防との打ち合わせですが、救急課長、担当主幹等と2回ほど行いました。1年間は延長いたしますので、引き続きお願いしたいと申し上げました。

参加の呼びかけについては、仮に1年間であっても、7市2町としては、医療連携、救急機能がありますので、参加の呼びかけはしていきたいと思っております。

もう一つ大切なことは、先ほど医療整備課長がおっしゃっていましたが、参加していただく住民・患者への周知、理解だと思っております。住民の方から、おそらく令和5年度の後半くらいから、場合によっては批判・苦情が来るのではないかと思っております。「とねっと」の住民・患者への意識調査の結果では、4割の方は是非とも続けていただきたいと、そういう方の意見がかなりくるのではないかと思っております。事務局としましては、事務局へ来たものについてはどこの市・町で、男・女別、どういった質問で、どういった回答をしたかなどを、フォーマットを作ってやっていきたいと思っております。当然のことながら、構成市町の皆さん方にも住民の方に、きちっと説明していただく必要がありますので、その点をお願いし、作業部会、協議会への現状報告をしなければいけないと思っております。協議会と構成市町は一体となって住民への周知、理解に努めて行きたいと思っております。

また、「とねっと」の会議は公開としている中、本日の会議は、7市2町での「とねっと」事業の終了ということになり、大変重要な会議でありますので、本日の協議会資料と議事録は、ホームページにアップし、公開とさせていただきます。

行政は、この「とねっと」を退会するにあたり、責任があるとのことで、住民に個別通知を出し、説明していくとの自治体もあります。協議会事務局で、この個別通知の事務は対応させていただきますので、すべての団体が、そういった方向にしていきたいと考えております。

（中野委員：東埼玉総合病院）

先ほどの加須市の説明がよく分からなかったもので、もう少しはっきり言っていただきたい。私たちは、現場で市民に確認を求められるので、明確に回答しなければならぬ。今の話ですと、他の市町が辞めたから加須市が辞めると聞こえるが、加須市単独の理由をお聞かせください。むしろ、お金がないから辞めますというのが分かりやすい理由ですが。

（萩原加須市副市長）

加須市としては、この「とねっと」につきましては、7市2町利根保健医療圏でスタートしたという状況の中で、・・・

（中野委員：東埼玉総合病院）

加須市が構成市町をまとめる立場ではないので、他の市町は関係ないですよ。加須市としての理由を述べていただきたいということです。むしろ、幸手市、杉戸町のように決断がつかなくて悩んでいるというのであれば理解できるのですが、加須市単独としての理由は何でしょうかという質問です。

(萩原加須市副市長)

継続を検討してきた加須市、幸手市、杉戸町の立地状況等を踏まえた中で、ネットワーク継続については、難しいという判断です。

(中野委員：東埼玉総合病院)

だから、なぜ、難しいのかの理由を教えてくださいと言っています。そんなに難しい質問ではないと思いますが。

(萩原加須市副市長)

「とねっと」として継続することが、残された2市1町だけでは難しいという判断です。

(中野委員：東埼玉総合病院)

言いたくないということでしょうか。難しいという理由を教えてくださいなのですが。

(萩原加須市副市長)

加須市としては、この「とねっと」の運営は協議会で行ってきているわけで、協議会として存続することは難しいという判断です。

(中野委員：東埼玉総合病院)

他の市町は財政難という明確な理由があるが、加須市だけはその理由が分からないということです。

(萩原加須市副市長)

繰り返しになりますが、加須市としては、協議会で進めてきたこの「とねっと」は、今の状況では難しいということです。

(中野委員：東埼玉総合病院)

質問は以上です。

(三島部会長)

加須市は継続が難しいと言っているが、県では2市1町でもいいと言ってく

れているわけです。それに対して、難しいと言っているだけであって、このシステムを立ち上げたところが先にいなくなるのは、他の市町から見ればどうなのか。いずれにしても、加須、久喜、幸手、杉戸という地域は利用者も多くて、先導してきた地域のわけです。そこに、久喜は新久喜総合病院、加須は済生会加須病院ができて、自分たちは、これでいいや、ということになってきている。3次救急まで受けた済生会加須病院は、この地域全体の責任を持たなくてはいけないので、それを誘致した加須市は、ほかの地域の責任を持ってほしいわけです。3次救急をやると言っているんだから、「とねっと」の情報を持ってやるべきことだと思います。そこを難しいと言ってやめてしまったのでは、自分の市しか考えていない、利根保健医療圏のことは何も考えていないのではないかと、それに尽きると思います。私は、怒り心頭ですけれども、なんでこんなに時間を費やしてきたのかということです。

これで終わりかもしれませんが、非常に行政の立ち位置というのが良く分かりました。今後、いろいろ考えさせていただきたいと思います。

(加藤会長)

三島先生は、ご意見ということでよろしいですね。

協議第1号令和5年度以降の「とねっと」システムのあり方(案)について、委員の皆様にご諮り

(原案のとおり承認)

(6) その他(高橋事務局次長)

- ・ 次回の協議会開催予定日：令和5年3月末頃開催予定
- ・ 協議事項：令和5年度事業計画及び収支予算(案)等

(7) 閉会(高橋事務局次長)

以上、この議事録が正確であることを証します。

令和 5年 2月 7日

議長(会長) 加藤 誠 (原本には署名あり)

署名人 野本 幸弘 (原本には署名あり)

署名人 渡辺 英治 (原本には署名あり)